

陳 情	受 理 番 号	119	受 理 年 月 日	令和5年6月9日	付 託 委員会	教育福祉
件 名	那覇市に於ける特定妊産婦指定の促進とベビーミルク支援について					

## 件名 那覇市に於ける特定妊産婦指定の促進とベビーミルク支援について

### 陳情項目

1. 那覇市に於いては、特定妊婦は児童福祉法第6条3第5項に従い(出産後の子どもの養育について出産前において支援を行う事が特に必要と認められる妊婦)指定を行い、周産期から乳幼児期の食と安全の確保等が図られています。  
現在法的に指定されていない産後の母子についても、特定妊産婦として寄添い型の支援体制を官民共に構築、強化する事を望みます。
2. ミルクの購入が困難な困窮世帯へのミルクとオムツ等の支援について現在の包括支援体制に於いて対応できるようにして下さい。

### 【具体的な施策の希望】

1. 特定妊婦を特定妊産婦として産前及び産後の登録による継続した支援の実施  
産前新生児用オムツ2パックの公的支援と、出産準備用品、産後に母乳が出ない時の支援
- 2 新生児訪問の際に担当保健師がいる事の情報提供で、継続支援に繋げる  
公的ベビーミルク支援(基本 月に2缶×3ヶ月間や月に1度のオムツ支援)の相談が出来る事を伝えて、助産師又は保健師の継続相談に繋げ易くし(3ヶ月から9ヶ月迄の乳児は月6缶のベビーミルクが必要)病気の早期発見、発育相談や離乳食の案内が円滑で繋げ易くなります。
3. 行政の人的資源活用  
児童手当、児童扶養手当で1缶でも購入していけるよう促し、サポートを継続する  
※新生児訪問事業・子育て支援事業(ファミリーサポートで3ヶ月の継続訪問)・赤ちゃん委員などの訪問の際に、薬局へ立ち寄り、ミルクとオムツを届けられるようにして下さい。
4. 行政支援機関の対応が困難な時や、時間外でミルクが必要な時に民間と協力する仕組みの構築  
ベビーミルクは約5日に1缶を消費するので、土日祝祭日に必要とする乳幼児もいます。  
休養が必要な産褥期と首がもつ迄の3ヶ月未満の乳児で月1回から3回の自宅配達を要します。  
自立へ向けた活動の始まる3ヵ月以降は、事情を考慮しつつ薬局での置き置き支援を促します。
5. 行政と民間の相互で繋がる世帯についての情報共有と相互活用。  
行政の訪問が困難な状況に於いては、緩やかに繋がれるよう、情報の共有も含めた相互の関係の構築を、取り持ちつつ働きかけられるようにしていけるような仕組みを希望します。
6. 必要な世帯への継続支援を、自立支援や就労支援に繋げていく  
行政へのヘルプが厳しい世帯への、民間から行政支援への繋ぎを含め、困窮世帯の自立を促す為の協力が必要な時は、相乗効果をあげられるよう専門機関へのサポートへ繋げられる支援を構築出来るよう希望します。
7. 乳幼児のお腹の具合と健康状態に合わせて支援する  
銘柄や医療用ミルクの支援や、医療的ニーズにも合わせて、体に負担のない支援を心掛けます。
8. ベビーミルクが購入できるようにベビー用品のお下がりなど、必要な物の確保に力を合せる  
年に3回から4回購入が必要なベビー服や、発育に合わせて必要なベビー用品についても、相互に相談しつつ出来るだけ調達できるようにする必要があります。

## 【経緯】

《2018年 夏から2019年》対象は那覇市のみ

那覇市社会福祉協議会より、生活困窮でミルクが買えず相談に来た方へ、お渡しできる在庫が無く

代表が当時在職中の那覇市母子寡婦福祉会にミルクの在庫が無いかの確認が有りました。

琉球新報で、他県の双子の乳児の内1名がミルクが飲めずに衰弱死の掲載記事を見て継続としました。

《2020年度 のべ 567名》個別支援数約100名 対象は中南部、ボランティア団体設立

《2021年度 のべ1451名》個別支援数約150名 対象は本島内全域

《2022年度 集計中のべ1500名以上》個別と行政支援を含む支援人数500名、対象は離島を含む県全域

《2023年4月3日 一般社団法人設立》

## 【陳情の理由】

1. 「母子保健」と「こども福祉政策」の間でこぼれてしまう母子に差し伸べる温かい手が必要です  
ベビーミルクを薄めて飲ませたり、アレルギー用ミルクが買えずに通常のミルクをあげ続ける以外の選択肢がなく、継続した支援も得られない乳幼児が、内臓を傷めてしまい、最悪救急搬送されるという看過できない状況も見られるようになっていきます。
2. 乳幼児の命と健康を守る為、公的支援と民間の資源との連携の構築と強化が必要です  
ひとり親では、30年前にも課題に挙げたようですが、今では薄めて飲ませる事が常態化し、問題である認識も薄く、代表が現況を把握してから11年となります。  
その間ミルクの購入が出来ない世帯への支援策は、在庫や寄贈がある時、継続したサポートは無く、特に未就園児の親御さん達のミルクが買えないとの叫びが、物価高騰も重なり増え続けています。
3. ひとり親、若年妊産婦、一般世帯も皆、困窮世帯は十分なベビーミルクが買えずに困っています  
乳児は3ヶ月から9か月の間に約6缶 毎月約5Kgのミルクを飲み干します。  
先ずそのご理解が頂けない事が多く、月に1缶から2缶で足りるとの誤認から、頂けても1缶のみが多く、4日から5日後には又ミルクの確保が必要となります。
4. 行政機関から、緊急対応のミルク支援の案内を受けての問い合わせも増えています